

令和5年度 自己評価

幼保連携型認定こども園 やながせ保育園

1.保育理念・保育観		評価	
1	保育教諭一人一人が、園の保育理念、教育・保育方針を理解している。	A	施設内研修や会議において理念を伝え、昔ながらの行事や保育内容について、こども一人一人の主体性を大切にしながら保育かどうかを問いかけながら計画を立てていった。
2	教育・保育方針を理解して、計画が立てられている。	A	
3	常に教育・保育方針や保育観を確認できるような機会をつくっている。	A	
4	一人一人の主体性を大切にされた保育をしている。	B	
5	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感している。	A	

2.保育計画・指導計画		評価	
1	教育・保育方針のねらい及び内容が達成できるような全体的な計画を立てている。	A	期毎に各歳児別に指導計画を評価し、計画の見直しを行っている。特に3歳未満児、配慮の必要な子については、関わる全ての職員(栄養士や調理員も含む)が計画を共有するようにした。
2	全体的な計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間指導計画、月案、週案を立てている。	A	
3	3歳未満児は、現在の姿を理解し、見直しをもって一人一人に応じた保育計画を立てている。	B	
4	配慮の必要な子には、その子に応じた保育計画を立てている。	B	

3.食育		評価	
1	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	A	栄養士、調理員、保育教諭が連携し、食育計画を立て取り組んでいった。手作りおやつ回数も少しずつ増やしていった。
2	栄養士・保育教諭が連携し、会議等で意見を交わしながら、より良い給食になるように努めている。	A	
3	出来るだけ、地元の食材や旬の食材を取り入れ、様々な食材を味わえるようにしている。	A	
4	給食やおやつは手作りをしている。	B	

4.職員構成・役割分担・研修		評価	
1	職員の仕事や役割が明確であり、連携を取って円滑な園経営が出来ている。	B	職員数が増え、年齢層が異なり、就労時間も様々で職員全員がそろえる事は難しいが、短時間で少人数でも相互理解が出来るような園内研修や会議を行う機会を増やしていった。
2	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。	B	
3	職員が各委員会に所属し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが活発に活動している。	B	
4	園内研修と園外研修の計画を立て、実行している。	A	
5	施設設備や遊具等の安全点検を行っている。	A	

5.保護者支援		評価	
1	保護者と良好な関係を作ろうとしている。	B	掲示板や、よい子ネット等で各クラスの様子を伝えていった。コロナ禍が明けて、3歳未満児の送迎を保育室まで出来る様に戻した事で園での様子をゆっくり伝えられるようになった。
2	園の保育内容や子どもの姿が分かるような発信をしている。	B	
3	保護者の状況を理解し、個人情報の漏洩に気を付けている。	A	
4	子育てのパートナーとして、保護者の子育ての大変さや悩みを理解している。	B	

6.子育て支援		評価	
1	地域に開かれた園として、日々子育てをしている親子を受け入れている。	A	地域子育て支援拠点事業を中心にホームページ等を有効活用し、子育て情報を発信した。地域の交流の場の利用者も少しずつもどってきた。
2	地域の子育てをしている親子の交流の場となるように努めている。	A	
3	子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるようにしている。	B	
4	園生活の子どもの様子を地域にも発信している。	A	

7.小学校や地域社会との連携		評価	
1	定期的に小学校との交流を行っている。	C	コロナ禍より、小学校との直接交流する機会が少なくなった。老人ホームとの交流では、手紙や製作物の交換、窓越しでの交流等、工夫して行った。
2	定期的に小学校や幼稚園との会議や職員交流を行っている。	B	
3	高齢者との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育てている。	B	

A:すべての点で目標、課題が達成できている。
C:取り組まれているが、成果が不十分である。

B:目標、課題が達成されている。
D:取り組みが不十分である。